Ⅵ　【第２部】分科会Bの概要～接続期カリキュラム作成演習～

協議主題５「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」を受け、接続期カリキュラムの作成演習を行いました。

まず、講師の上越教育大学大学院教授　木村吉彦様から「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の定義や意味付けについて御講義いただき、仙台市や田上町の先進的な事例をもとに、接続期カリキュラム作成のポイントについての共通理解を図りました。

講義後、分科会B「接続期カリキュラム作成ワークショップ」を行いました。まず、木村教授から示していただいた先進的な取組事例の分析を行い、取り入れたい点や参考点等を洗い出しました。

その後、参加者が持参した自園・自校の年間指導計画の見直しを行い、年長児の後半におけるアプローチカリキュラム、小学校入学時におけるスタートカリキュラムの作成演習を行いました。

【木村吉彦教授による分科会講義】

１　分科会B講義　※講義の概要については、P77～86を参照

講師：上越教育大学大学院　教授　木村　吉彦　様

演題：「アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムとは、そしてその具体例」

２　分科会B「接続期カリキュラム作成ワークショップ」の概要

（1）　「接続期カリキュラム」先行事例分析の流れ

（１）「接続期カリキュラム」の先行事例を基に、取り入れたい点や疑問点を付箋紙に書き出す。＜個人＞（15分）

【付箋の書き方】
①先行事例を見て、取り入れたいと思ったところ→ブルーの付箋
②よく分からない・疑問に思ったところ　　→ピンクの付箋
③１枚に１つの内容を記入する。

＜付箋の例＞ブルー

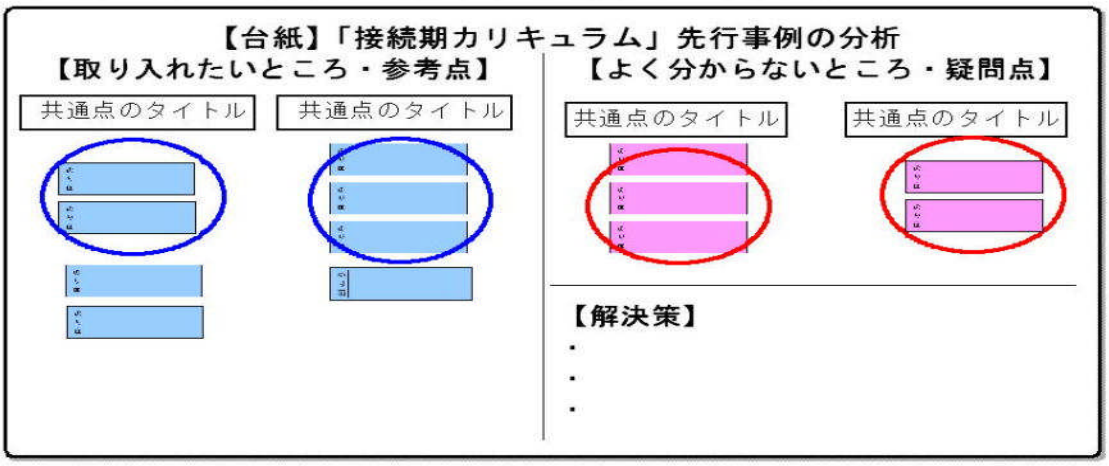
のり面
・取り入れたいと思ったところ
・参考になったところ

＜付箋の例＞ピンク

のり面
・よく分からないところ
・疑問点

（２）自分が書き出した付箋をグループ内で紹介し、似た項目にまとめながら【台紙】に添付する。＜グループ＞（15分）

①付箋の内容の紹介は簡潔に！
②集約した付箋をマジックで囲み、タイトルをつける。
③時間があれば、疑問点に対する解決策を話し合い、記入する



(2)　「接続期カリキュラム」先行事例分析の概要

＜取り入れたいところ・参考となる点＞

①アプローチカリキュラム

・小学校の生活時間（45分間）の流れに合わせ、動⇒静⇒動の時間を意識したデイリープログラムに変更している。
・遊びを通して、文字や数への関心と意欲を高めている。
・年長児は、午睡の時間を活用して学校ごっこや授業ごっこ等の楽しい活動を入れている。
・小学校教育の先取りではなく、あくまでも５領域の内容に基づいて取り組んでいる。
・アンケート調査による根拠に基づき、生活リズムの変化に説得力をもたせ、保護者の理解を図っている。

②スタートカリキュラム

・誰が１年担任になっても指導可能な指導計画になっている。
・入学当初、１時間目に学年合同での活動時間（ぽかぽかタイム）を設定している。歌や遊び等を中心にした幼児教育を意識した流れになっている。
・生活科と関連させ、友達との関わりが増すような活動を意図的に設定している。
・入学２週目に、幼児教育との連続性を意図した授業（「幼稚園の先生が来たよ」）を行っている。

(3)　自園・自校の指導計画や取組の見直しの概要

（３）子どもの発達の連続性をポイントに、今後継続していく点や改善点について、自園、自校の指導計画や取組を見直す。＜個人＞（35分）

【見直しの方法１】　自園・自校の指導計画等を活用し作成

①今後も継続して活用できる点
→ブルーの付箋紙に書き出し、指導計画上に添付する。

②改善点・新たに取り入れてみたいこと
→イエローの付箋紙に書き出し、自園・自校の指導計画上に添付する。

【見直しの方法２】　先行事例を基に新たに作成

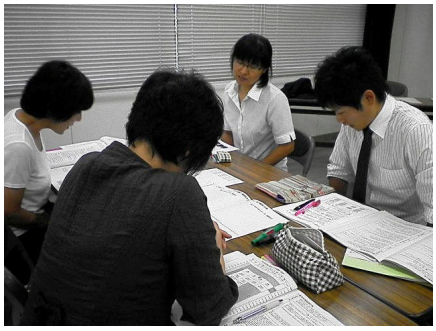
①スタートカリキュラム、アプローチカリキュラムの原案を作成

３　参加者の感想　※平成24年度新潟県幼稚園教育研究集会アンケートから抜粋

○　仙台市や田上町の先進事例の資料が大変参考になりました。アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの作成のポイントについて、具体的に話があったので分かりやすかったです。

○　小学校のスタートカリキュラムの事例を見せていただいて、幼稚園との接続の方法として参考になりました。改めて、５歳児と小１との接続の大切さを実感することができました。

○　接続期カリキュラムについて、先駆けて取り組み実践している園や市町村の話を聞いたり、資料を見せてもらったりして大変参考になりました。様々な立場の先生方と情報交換により、自校の取組の見直しができて有意義でした。

○　小学校の先生がグループ内にいらしたので、小学校の話も具体的に聞けて良かったです。まずはお互いを知り合うことが大切だと思いました。

○　今までやってきたことを見直しながら、「この活動がこういう活動につながっていく」という小学校へのつながりを意識しながら保育に当たっていきたいと思います。